

悲しみ抱き締めて歩む

おおしま はなこ
大島 花子さん



東京都出身。シンガー・ソングライター。父は歌手の故・坂本九さん、母は俳優の柏木由紀子さん。大学1年だった1992年にミュージカル「大草原の小さな家」で初舞台。2003年、父の曲「見上げてごらん夜の星を」でメジャーデビュー。災害被災地の慰問や、人権をテーマにした講演活動もしている。52歳。松本市の神宮寺で。

今でも悲しく、喪失感はずつとあります。インタビュアーでよく、どうやって乗り越えたのですかと聞かれます。「乗り越えていません」と言えるようになったのは、父が亡くなって30年ほどたった頃でした。グリーフ（喪失に伴う悲嘆）サポートの進行役の養成講座を受けた時期

父は亡くなる日の朝、ラジオの収録で「心の瞳」を歌いました。放送を聞いたある学校の先生が合唱歌にしてくださった。

ピアノを習っていた私は、この曲を歌う父にピアノで伴奏をしたと思います。でもそれはかなわなかった。1985年（昭和60）年8月12日、父は群馬県の山中に墜落した日航ジャンボ機に乗っていました。「心の瞳」は、父の最後のシングルレコードのB面に収録されました。

にしています。

なぜなら私は何十年たつても忘れられない。「今すぐ乗り越えなくてもいいんじゃないですか」って。すると「すぐくほつとした」とおっしゃるので。被災した皆さんは「何とかして笑わなきゃ」「前を向かなきゃ」「乗り越えなきゃ」というプレッシャーの中で生きています。

のだと思えたのです。

東日本大震災の被災地を慰問
などで50回ほど訪れています。

「みんなに応援してもらい、亡
くなった人がいる中で私は生き
ているのだから、泣いている場
合じゃないし、前向きに生きな
きゃいけない」とおっしゃる方
がいます。私は、「泣いてもいい
んですよ」とお伝えするよう

全国の学生さんから「心の瞳」

山ろく
清談

日銀の
和男総
が決め手となったことが10日
分かった。植田氏は必要で
あれば「利上げペースを速
複数の「

【関連記事6面に
日本政府関係者が明

日米財務相が昨年9月、為替介入に関する共同声明を公表後、米国は日本政府に対し

こぼれ話
こちらから



竹は節があるから伸びるといいます。つらいことも多いのですが、節目はいろいろな考える機会になります。現場の山に初めて登れたのが、父が亡くなって20年目。悲しみと歩いていくように思えたのは30年目でした。そして40年目は、学生さんたちと「心の瞳」を歌う活動が始まりました。この活動も、父とつながる作業の一つなのかもしれないと思います。

全国の学生さんから「心の瞳」の感想や合唱の録音、映像が届きました。歌ってくださる方に直接お会いしたくて、私は去年、学生さんと「心の瞳」を一緒に歌う活動を始めました。「心の瞳」を見つめる「ってどういうことなんだろうねと、問いかけています。

与野党協議会の 座長試案骨子のポイント

■小選挙区比例代表並立制
を見直す場合、比例復活

衆院は10日、
り方を検討する
の幹事会を開き
長（自民党）が
けた座長試案
た。現行の小選
並立制を見直す
活当選の基準を
向性を明記。比

眾院 基準

地方に

政府は10日、月の消費税減税年6月以降に先得連動型の新たな、地方自治を始めた。税や軽減する制度のえ、地方にも二

所得連動給

- 2027年4月の消費税減税に合わせ、同年6月以降に先行導入
- 地方自治体にも一定の財政負担を求める方針
- 自治体の給付実務の負担軽減、公